

教育・研究支援機関としての図書館の役割について

はじめに

社会構造、社会環境の変化

高度情報化時代：生産財(土地、資本、労働) + 情報財

社会パラダイムの変容：国際化(ボーダレス化)、高齢化、.....

* アングロサクソン標準？

ユビキタス社会と IC タグの普及

PFI と指定管理者制度

1 . 大学の変化

大学全入時代と新学習指導要領；普通科科目「情報 A、B、C」

* 一方で定員割れの短大、大学の増加

学部学科の再編、大学院の展開、社会人大学院、専門大学院.....

自己評価・自己点検から、他者評価・第三者評価へ

* 「アメ」と「ムチ」の政策

経営計画、経営目標・計画・数値目標?と成果評価(Plan – Do – See)

授業評価、授業方法の変化、教育方法論・技術の教員教育

研究評価、研究体制の変化、外部資金の導入、産官学連携

独立行政法人化；私立大学化?、25%の定数削減?、経営と教学の分離

「経営者」裁量経費(政策経費)の増加

学内構成員によって選出されない経営者?

2 . 大学の位置の変化

大学のアイデンティティ(UI)と社会説明責任

地域貢献：機能の公開、場所の公開.....

産官学連携の推進、COE(卓越の拠点)の追求、外部資金の導入

学生、院生(教育需要者)の変化：社会人、多文化環境

実務型教員の増加

3 . 図書館の変化

3.0 設置母体の中での図書館の位置：大学の教育目標、研究体制を反映したもの

3.1 図書館経営

アウトソーシング：外注、委託、派遣、アウトソーシング(組織の外注)

情報の電子流通：電子ジャーナル、サイトライセンス、コンソーシアム

利用者サービスの向上：静的利用統計 + 各種利用者満足度調査

図書館経営計画と評価の仕組み

3.2 図書館の協同行為

書誌ユーティリティの構築：目録等データベース、ILL、メタデータデータベース、

オンライン Ref.、Ref.データベース

コンソーシアムの形成：共同購買組合から自立的組織へ

* オーバーヘッドの課題：人(汗と知恵)と活動資金

地域総合目録の構築、地域図書館ネットワーク

3.3 図書館技術

環境：ネットワーク環境：インターネット、イントラネット、LAN

ブロードバンド化、高速化

技術：学術情報プラットフォームとしてのリンクング・テクノロジーの進展

OPAC のメタ・ネットワーク化、ネットワーク提供コンテンツの増加

図書館システムのオープンソース化

標準化：メタデータ DC の 3 層構造化(DCS-DCQ-LAP)、目録規則の変化 etc.

各種プロファイルの開発；Bib-1、ZING SRW/SRU etc.

3.4 対象コンテンツ

流通コンテンツが中心 + 大学生産情報の電子化、蓄積と提供

ネットワーク情報資源：パスファインダー、リンク集の作成、図書館ポータル構築

「保存」：資料の保存、電子化資料の保存、Bone Digital、OSI 参照モデル

3.5 利用者志向の進展

利用者教育の推進：情報リテラシー教育への参画

FRBR モデル：利用者が求めるものとその手がかり

IFRA の OPAC 表示ガイドライン など

4 . 図書館の戦略

4.1 大学全体の経営戦略の中に位置づけられた図書館経営戦略

4.2 知識の交流の広場と仮想空間の提供：リアル世界とバーチャル世界

4.3 教育、研究体制と貴重書コレクションの電子化

4.4 大学生産の学術情報資源の組織化と提供、保存

例えば、学位規程(電子化と情報発信)はどうなっているか？

4.5 大学全体の知的資産のコントロールセンター？

4.6 図書館の「開放」は、知的資源の公開

さいごに

「大学は学問の府、社会人も久しぶりに大学生活を思い出し、原理原則に従って論理的に思考を巡らすようになる。それが産官学連携や社会人大学院の特徴。」

図書館は大学の心臓/知的センター vs. PFI や指定管理者制度？

海図のない世界をどう考えるのか？